



SANO Tech100

大阪府立佐野工科高等学校 広報委員会

第10号

〒598-0012 泉佐野市高松東1丁目3番50号 <http://www.osaka-c.ed.jp/sano-t/>

TEL 072-462-2772 (2026年6月23日 発行)

大阪と紡績

— 木綿から軽工業のリーダーへ —

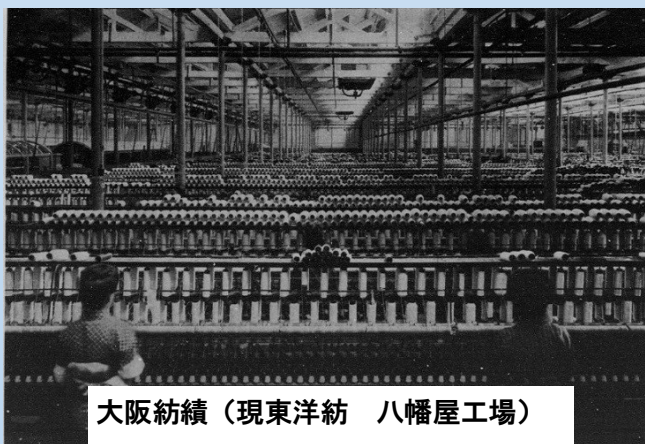
現代の織物については、石油から作られる化学繊維が全盛ですが、もともとは自然の素材が衣服になっていました。布を織るときに使われる糸がすべての繊維の根本となりますが、この「糸」を作る作業には「製糸」と「紡績」があります。

▼木綿の花（綿花）を摘み、花を撚りながら糸にしていくことを「紡績（ぼうせき）」といいます。また、蚕（カイコガのさなぎ）をお湯につけて繭をほぐし、糸を作るのが「製糸（せいし）」といいます。

▼製糸業は、富岡製糸場に代表されるように多くは官営としてスタートしました。絹製品は外貨を稼ぐための輸出産業でした。

▼それに対して紡績業は主に国内市場向けの需要に応えるための産業で、主に民間資本によってはじまりました。

▼大阪は江戸時代から綿産業が盛んで河内木綿・泉州木綿などが有名でした。その関係で1882年、大阪紡績会社（現・東洋紡績株式会社TOYOBO）が発足、イギリス製のミュール紡績機を導入し、機械化により生産効率を向上させました。大阪紡績の成功により、次々と紡績工場が設立されるようになります。



大阪紡績（現東洋紡 八幡屋工場）

▼工場労働者となる若者や女性を比較的容易に確保できたこと、大量に安価に手に入るインド木綿やエジプト木綿を神戸港から入手することができることから、大阪は綿製品のメッカとなり、日本の経済を支えるこ



官営富岡製糸場（富岡製糸場HP）

とになりました。（大阪市立科学館ウェブサイト）

▼紡績業が活発だったからこそ、西日本一帯から多くの中卒女性を女工に採用し、働きながら学ぶ「通信制集団部」「隔週定時制」といった府立高校が誕生しました。

▼ちなみに紡績会社は「〇〇紡績」という会社名を略して「〇紡」という略称で呼ぶ場合が多いです。大日本紡績株式会社は「日紡（ニチボー）」、鐘ヶ淵紡績は「鐘紡（カネボウ）」といった風に略します。そのほかにも「クラボウ」「シキボウ」などがあります。

▼ニチボーは大きな工場が貝塚市内にあり、この工場の実業団バレーチームが東京オリンピックでは「東洋の魔女」と呼ばれるようになりました。

▼1969年、日本レイヨンという会社と合併して繊維の総合商社「ユニチカ」となります。また、鐘ヶ淵紡績は、衣料からデザイン、さらに繊維の知識を応用して多角化、今や一大化粧品メーカー「カネボウ」となっています。

<https://www.osaka-c.ed.jp/sano-t/zen/sano100.html>

SANO Tech100のQRコード

